

栃木県行政改革推進委員会（7月7日）における各委員の御意見〔次期行財政改革大綱関係〕

参考資料

各委員からの御意見	県の考え方
◆全体的事項	
○ 4つの目標が掲げられているが、現大綱と同じような内容で新しさが無いので、言い回しの工夫が必要ではないか。また、いろいろな取組があるが、県がどのような考えで取組を行っているのかわからない。	○ 次期大綱では、地方分権時代に対応した県政の確立に向けて、4つの目標を掲げており、「協働」「透明」「自律」「原動力」のキーワードを示し、わかりやすく体系を工夫したところである。 また、今後、各論において具体的な取組内容を詰めていくが、どのような取組を実施していくのかできるだけわかりやすい記載内容にしていく。
○ 現大綱の取組に対する明確な課題がわかっているのであれば、総論で既に明確になっている課題に関しての取組を文言として書いてもいいのではないか。	○ 総論での具体的な記載について検討中である。
○ 相当スピードを上げて行財政改革に取り組んでいく必要があるのではないか。	○ 次期大綱の推進期間は5年間であるが、「とちぎ未来開拓プログラム」を踏まえた目標設定を行い、できる限り推進期間前半の2年間に重点的に取り組むこととしている。
◆「県民とともに地域を創る行政の推進」	
民間活力の活用 ○ 指定管理者制度、アウトソーシングは、コスト削減が注目されがちであるが、県民の自在な高い能力を導入した上で、今までよりも効率化させる、サービスを向上させる意味合いがあるので、次期大綱では、そのような表現にしてほしい。	○ コスト削減効果だけではなく、民間ノウハウの導入による県民サービスの向上といった観点を盛り込んでいく。
◆「県民に開かれた行政の推進」	
政策評価 ○ 現大綱では政策マネジメントシステムの適切な運用が記載されているが、今後何か運用の見直しがあるのか。	○ 県民の視点に立ったわかりやすい成果指標の設定等により、効果的な行政評価を図っていく予定である。
情報通信技術の活用 ○ ホームページのアクセス数が減っている中で、県民が関心を持つような取組を進めていくべきではないか	○ 県ホームページについては、県政情報の積極的発信の中で、県民に対して、魅力があり、利用しやすく、分かりやすいページ作成に取り組んでいく。
◆「自律的な財政基盤の確立」	
収支の均衡した予算編成 ○ 県税収入の激減に見合う予算編成をきちんと打ち出すべきではないか。	○ 県税収入を含めた一般財源総額を推計して「とちぎ未来開拓プログラム」を策定したところであり、次期大綱においても収支の均衡した予算編成に関する項目を盛り込んでいく。

<p>事務事業の見直し</p> <p>○ 財政をしっかりしなくてはならないが、その基本として、取組方向として県のすべての事業を仕分けするぐらいの方向を入れて、徹頭徹尾スピード感をもって取り組むべきではないか。</p>	<p>○ 「とちぎ未来開拓プログラム」の策定にあたり、ゼロベースで事務事業の見直しを行ったところであり、集中改革期間と重複する推進期間前半において積極的にプログラムに掲げた取組を着実に実行していく。また、引き続き事務事業の見直しについて取り組んでいく。</p>
<p>税収入の確保</p> <p>○ 滞納を減らして徴収率を上げる試みをしていただきたい。また、なぜ滞納するのかモラル的などころまで掘り下げていく必要があるのではないか。</p>	<p>○ 滞納処分の強化など、今後も、滞納額の縮減に取り組むことともに、納税意識啓発のための税務広報の充実に取り組んでいく。</p>
<p><b>◆「スリムで活力ある執行体制の確立」</b></p>	
<p>効果的で効率的な人員配置</p> <p>○ 選択と集中の中で、県の成長戦略に人員を厚めにシフトしていくことも必要ではないか。</p>	<p>○ 課題に対応してウェイトをかけたり、一方で削減するなど、組み合わせながら人員配置をしているところであり、今後も取り組んでいく。</p>
<p>適正な定員管理</p> <p>○ 定員管理計画の目標を達成することはいいが、多く減り過ぎているということはないのか。</p>	<p>○ 「とちぎ未来開拓プログラム」の中で、一般行政部門について、平成 25 年 4 月 1 日に 4,300 人体制にする目標を掲げており、職員配置の工夫や事務処理の効率化などを図ることにより対応していく。</p>